

# 和地ひとみレポート No.97

平成 25 年東大和市議会第 3 回定例会：一般質問②『自治会について』

行政は計画だけではなく、実行、検証を！！



## ■重要性の高まる自治会

…9月3日から開催されていたH25年東大和市議会第3回定例会において、和地ひとみは以下の2つのテーマについて一般質問をおこないました。

### ① 障害者総合支援法の各種サービスについて

・障害者総合支援法による各種サービスの対象者が介護保険制度の対象年齢になった場合について

⇒現状と課題とその対応について

※内容は前号No.96に掲載

### ② 自治会について

・当市における自治会の位置づけ、重要度

・市では平成 17 年度に、市と自治会が協力し「自治会活性化への取組み」報告書を作成し、これに基づき様々な活動を行ってきたとホームページ上で公表されている。

⇒取り組みのポイント、具体例とその効果は。

⇒報告書作成から5年以上が経過しているが、今後、課題の見直し、次の段階への取り組みに移行するなどの予定はあるか。

・今後の課題と市が考える自治会のあり方実現のための方策について

…地域のお祭りや災害時の対応、青少年育成、地域の美化など自治会の活動は様々な場面で目にします。その活動は、市の目指している『市民協働によるまちづくり』の基本的なものとも言えると同時に、阪神淡路、東日本大震災の発災後はその存在の重要性も高まっています。さらに東大和市においては、市長が所信表明で明示した市政運営の5つの基本姿勢の中の「市民と行政が協働する市政の実現」「震災に強い安心・安全なまちづくり」を実現させるためにも、地域に根ざし、その地域の市民が協力し、自らで地域を良くしていこうという組織である自治会は非常に有効なもの。事実、東大和市総合計画「第二次基本構想（改訂）及び第四次基本計画」の中でも、ともに支え合う地域社会の確立の分野で自治会は代表的な組織として挙げられているほか、市が作成する様々な計画には自治会が市民の代表的な組織として明記されています。このように、市民との協働によるまちづくりを実現していこうという現状において、自治会の活性化は必要不可欠だと和地ひとみは考えます。また、市でも平成17年度に自治会長との協議を重ね、問題点や自治会、行政それぞれの役割や取り組みなどを分析し『自治会活性化への取組み』という報告書をまとめ、5年計画で様々な取組みをしていくことを公表しています。そこで、今回は自治会の現状ならびに市の考える自治会の意義、また、活性化への取り組みなどについて確認しました。

## ■行政の考える自治会とは

…まず、市は自治会をどのように位置づけているのかを確認したところ「住んでいる方々が住みやすく、誇りに思えるようなまちづくりのために、自治会にはパトロール、公園の美化清掃などを行っていただいております、これらの活動は自分たちのまちは自分の手で守るといったような自主的な考えで実践されていると考えています。自治会には問題対処能力、環境施設維持機能、親睦機能の3つの機能があると言われており、自治会はまちづくりの中心的役割を担っていただいていると考えており、市もそのように位置づけをしている」との答弁でした。

…自治会の起源をたどると、太平洋戦争中は国が町内会、隣組などを整備したことがルーツになっているという部分はありますが、現在は法的な縛りはないと同時に市が主導して組織するものでもなく、独立した組織。しかし、自治会の意義を考えると、その効果をあげるためにも行政との協力関係は必要です。そこで、現在の自治会と行政との繋がり、関係を確認しました。

…現在の東大和市の行政と自治会の現実的なつながりとして挙げられたのが「市からのお知らせなどを回覧してもらう」「地域が基礎となっている防災組織を市が支援する」「地域で行う青少年対策地区委員会には自治会からの選出区分を設けてもらう」「4月1日を基準日とし、1世帯当たり年額160円の補助金を出す」また「地域の美化活動など必要に応じて市が支援を行う」というもの。しかし、『自治会活性化への取組み』の中での現状の問題点として明記されている自治会＝市民側からの意見は「(募金など)市のお金集めの道具にされている」「行政からの広報物の配布など下請的仕事への協力要請が多く負担が大きい」というもの。この状況について市は「広報物の配布などは情報提供として市は行っているが、下請けの仕事と感ずるということは認識、意識の違いがあると見ている」との答弁でした。

## ■活性化のために掲げた取り組みの効果は

…『自治会活性化への取組み』のまとめでは、会員減少化への対策、自治会のない地域への新たな組織の確立、その他と大きく3つ問題点が挙げられています。実は問題点の「その他」の内容が具体的な問題解決のためのキモではないかと和地ひとみは考えました。

…「その他」の問題点としては「市が自治会に何を期待しているかわからない」「市の職員に自治会に入るメリットはないと言われた。市として自治会の必要性を認識してほしい」

【裏面につづく】

「コミュニティ、ふれあい運動会、学校、消防団、消防署、警察署等の区割りがまちまちであるので、行政として統一した区割りを考えて欲しい」など、行政側の意識改革、また、活動を活性化するために行政が主導して行わなければならない区域割りのような大掛かりなものなどが挙げられています。これらについて、平成17年から今までどのような取り組みをしてきたかを確認したところ、職員の意識や自治会への加入については職員の新人研修で自治会についての話をすることにしたこと、また、区割りについては調査検討をしている段階との答弁でした。また、市として自治会に対する役割が明確でないと思っており、その原因は、やはり自治会とともに歩くような共通認識、特に協働というような考え方がまだまだ市として足りていないと認識しているとのコメントもありました。

## ■会員減少を問題としているが

…『自治会活性化への取り組み』の問題点の「会員減少化への対策」

「自治会のない地域＝自治会空白地帯への新たな組織の確立」についての取り組みについて確認したところ、転入者に自治会加入を進める

ため、市民課での転入届け出の際に自治会加入のチラシの配布を行う、市報やホームページでも加入の呼びかけを掲載する、また、市内の不動産業者に新たに契約する人へ自治会加入、PRのチラシを渡していただくようにしたとの答弁。また、自治会のない地域への新たな組織の確立については、上北台地域など自治会のない地域で自治会の必要性をPRするシンポジウム等を開催したとのこと。しかし、加入率の向上などは図れなかったこと、新たな自治会の増加がなかったことなどを考えると、取り組みの効果のほうは余りなかったと考えているとの答弁でした。

…現在の東大和市の自治会加入率は約36%。平成17年の『自治会活性化への取り組み』の中では平成21年度までに加入率60%にすると目標が掲げられています。確かに人口が増加する＝分母が大きくなれば率を上げるのは大変になりますが、平成16年に44%あった加入率は大きく低下しています。また、計画期間が平成25年度～平成33年度の第四次基本計画では「第四次基本計画で目指したこと」の最初に『市民と目標を共有し

協働してまちづくりに取り組むことができること』を掲げているにも関わらず、自治会の加入率の目標値は現状維持。これでは、市の考えている方向性との整合性がとれていないと和地ひとみは考えます。この目標値について確認をすると、理想は50%ぐらいだと考えるが36%の現状維持を目指すのが現実的ではないかとの答弁でした。理想が50%なら、目標を50%に掲げて、それを達成するための施策を考えるのが、当然、あるべき姿だと考えると意見を述べました。

## ■計画は作ることが目標ではないのでは

…現在は生活スタイルも変わり日常の忙しさの中で自治会に加入することが困難な人も多くいると思います。今回も自治会に加入しない理由をどのよう

に考えているかと市に確認したところ「自治会活動に興味がない」「どんな活動をしているかわからない」「仕事や子育てなど忙しくて参加する時間がない」「活動や役員の仕事が負担である」ということが要因であると考えているとの答弁がありました。確かにこのような現実があることは想像できますが、一方で、最初に述べたように市は様々な施策の中で自治会を挙げており自治会の重要性は高まっているという状況です。この乖離をどのように埋めていくのかを考え、具体的に取り組みを実施していくことが「目指すまちづくり」の実現化に向けた行動ではないでしょうか。既存の自治会という形にこだわらず、様々な世代の人が関わる方法を見出すことが、災害時などの際に役立つのではないかと考えます。隣の立川市には「日本一の自治会」と呼ばれている加入率100%の大山自治会があります。身近にある成功事例を研究することも一つの方法です。

…今回は自治会について取り上げましたが、これに限らず市の作成する様々な計画については「計画を文書化し冊子にすること」が最終目標になっているのではないかと感じるものが多くあります。計画は実施し、検証見直しすることで初めて有効なものになると思います。市が公表する『計画』を目にした市民は「計画の今後」に期待し、協力するもの。その点の意識改革から市にはおこなって欲しいと思います。



### 市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

### 「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校以外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)インターネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、新人東大和市議会議員として、日々、奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>  
✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546  
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102